

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 株式会社 ウェルファムフーズ		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 102-0074 東京都千代田区九段南2-1-30	
本票作成	部署名： リスクマネジメント部				
主たる業種	分類コード	09	業種名： 食料品製造業		
事業の概要	ブロイラーの肥育、処理、加工： 岡山事業所従業員数： 195人				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	岡山事業所岡山工場		新見市西方1567	
	②	岡山事業所吉家E農場		高梁市備中町西山2415	
	③	岡山事業所足見A農場		新見市土橋37	
	④	岡山事業所豊永A農場		新見市豊永赤馬3240-1	
	⑤	岡山事業所足見B農場		新見市足見2177	
	⑥	岡山事業所吉家B農場		高梁市備中町西山2540-2	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 21 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 26 年度)	(平成 28)年度排出量	目標年度(平成 31 年度)
	10,816 t CO ₂	13,240 t CO ₂	12,017 t CO ₂

主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 28)年度排出量
	①	岡山事業所岡山工場	6,823 t CO ₂
	②	岡山事業所吉家E農場	507 t CO ₂
	③	岡山事業所足見A農場	404 t CO ₂
	④	岡山事業所豊永A農場	284 t CO ₂
	⑤	岡山事業所足見B農場	327 t CO ₂
	⑥	岡山事業所吉家B農場	207 t CO ₂

削減目標の達成状況	計画期間： 平成 27 年度 ～ 平成 31 年度 (5 箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(28)年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	△ 10.4 %	5.0 %	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 岡山工場の生鳥処理重量 (トン)	原単位当たり排出量		
		基準年度	(28)年度	目標年度
		0.394 t CO ₂ /(トン)	0.435 t CO ₂ /(トン)	0.375 t CO ₂ /(トン)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 28 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

・岡山工場で食品安全の規格のFSSC22000に適合するため、工場の空調設備の増強を行ったこと、人手不足対応のため省人化設備を導入したこと、製品の加工度向上のため、冷凍設備等を導入したことなどにより、基礎的な電力使用量が前年度から増加したため、目標を達成できていない。
 ・各農場での熱源は、既に基本バイオマスボイラー（鶏糞焼却炉）によるものとしているので、LPGの燃焼装置を熱源とする場合に比してCO₂削減となっているが、原単位の改善にはつながらない。

【推進体制】

- ・岡山工場を運営する製造部、農場を運営する農場部それぞれに、エネルギー管理員有資格者を配して、省エネルギーに取り組んでいる。
- ・平成27年度より、工場の設備管理の専門部署である工務課を製造部に設け、省エネルギーを含む設備管理をより推進できる体制となっている。

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
岡山工場	(平成28年度実施分) <ul style="list-style-type: none"> ・工場が発生する不可食内臓等を他社の化製品工場に原料として販売していたが、平成27年の期中からは、全量自社の工場で肥飼料化することとし、輸送にかかるエネルギーを削減できた。 ・工場の設備管理の専門部署である工務課を製造課から独立させ、省エネルギーを含む設備管理体制が強固になった。
農場部	<ul style="list-style-type: none"> ・鶏糞ボイラーの補助燃料は、従来LPGであったが、自社で発生する廃プラスチックを原料とするRPF（固形燃料）への置き換えを行い、CO2削減効果が発生している。また、鶏舎で使用する換気扇について、消費電力が従来型の1/3程度のタイプ（スマートファン）を導入した。 ・平成28年度中に、1農場が新規に完成し、鶏ふんを熱源とするバイオマスボイラーを採用し、照明にはLEDを使用するものとした。
農場部	(今後実施予定分) <ul style="list-style-type: none"> ・新鶏舎を平成29年度中に1農場建設することとし、照明はLEDを採用し、鶏舎内の熱源にはLPGのほかに床暖房を利用する。この床暖房の熱源は鶏糞ボイラーとしている。

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	有	鶏糞焼却炉の熱を隣接する鶏舎で使用する熱源（以前はLPG）として、14農場で導入している。
その他	有	上記と同様の仕組みを宮城県の農場の一部で導入している。

【その他特記事項】

- ・全社全従業員参加のコンプライアンス研修で、当社の使用エネルギーおよび原単位推移について説明した。
この資料を別途、イントラネットにアップし、情報共有できるようにした。